

稲永研究室

ICTを活用した地域課題解決

理工学部情報科学科

情報科学演習I 研究室紹介



自己紹介



稲永 健太郎 いねなが けんたろう

教授 博士(工学) 専門分野：交通情報学

• 現在の主な研究・社会活動

– 九州産業大学地域公共交通運行管理支援グループ 代表

– 九州産業大学産学共創・研究推進本部 副本部長

– 日本情報経営学会 常任理事

– 日本経営システム学会 理事

– 福岡県交通対策協議会 委員

– 福岡県MaaS実行委員会 委員

– 福岡県平成筑豊鉄道沿線地域公共交通協議会 委員

– 古賀市地域公共交通会議 委員(会長)

– 小郡市地域公共交通活性化協議会 委員(副会長)

– 東峰村地域公共交通活性化協議会 委員(副会長)

– 筑前町地域公共交通会議 委員(会長)

– 新宮町地域公共交通活性化協議会 委員(会長)

– 福岡市都市交通協議会 委員

– 福岡市地域公共交通計画協議会(会長)

– 福岡市交通に関する民間企画提案に係る検討会議 委員

– うきは市地域公共交通活性化協議会 委員(会長)

– 須恵町地域公共交通協議会 委員(会長)

– 鹿児島市公共交通ビジョン協議会 委員

– 一般社団法人日本バス情報協会 正会員

– 地域と交通をサポートするネットワーク in Kyushu(Qサポネット)世話人



研究室の主要研究テーマ

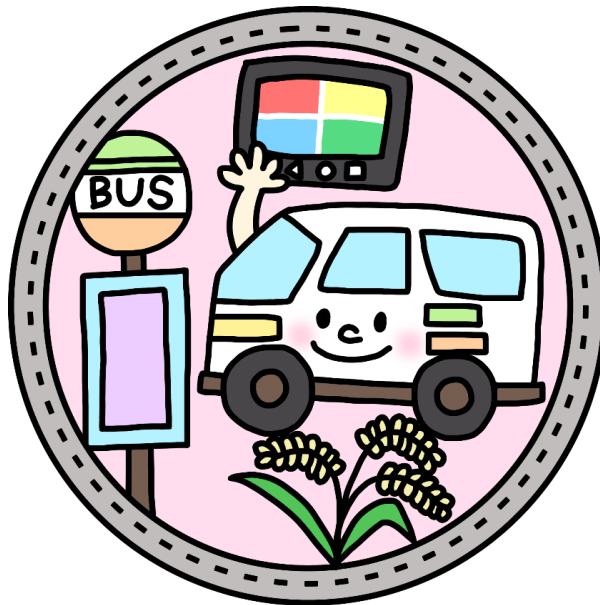
地域公共交通向け運行管理支援
システムの開発とその実践

生活困窮者自立支援のための
情報共有システムの開発

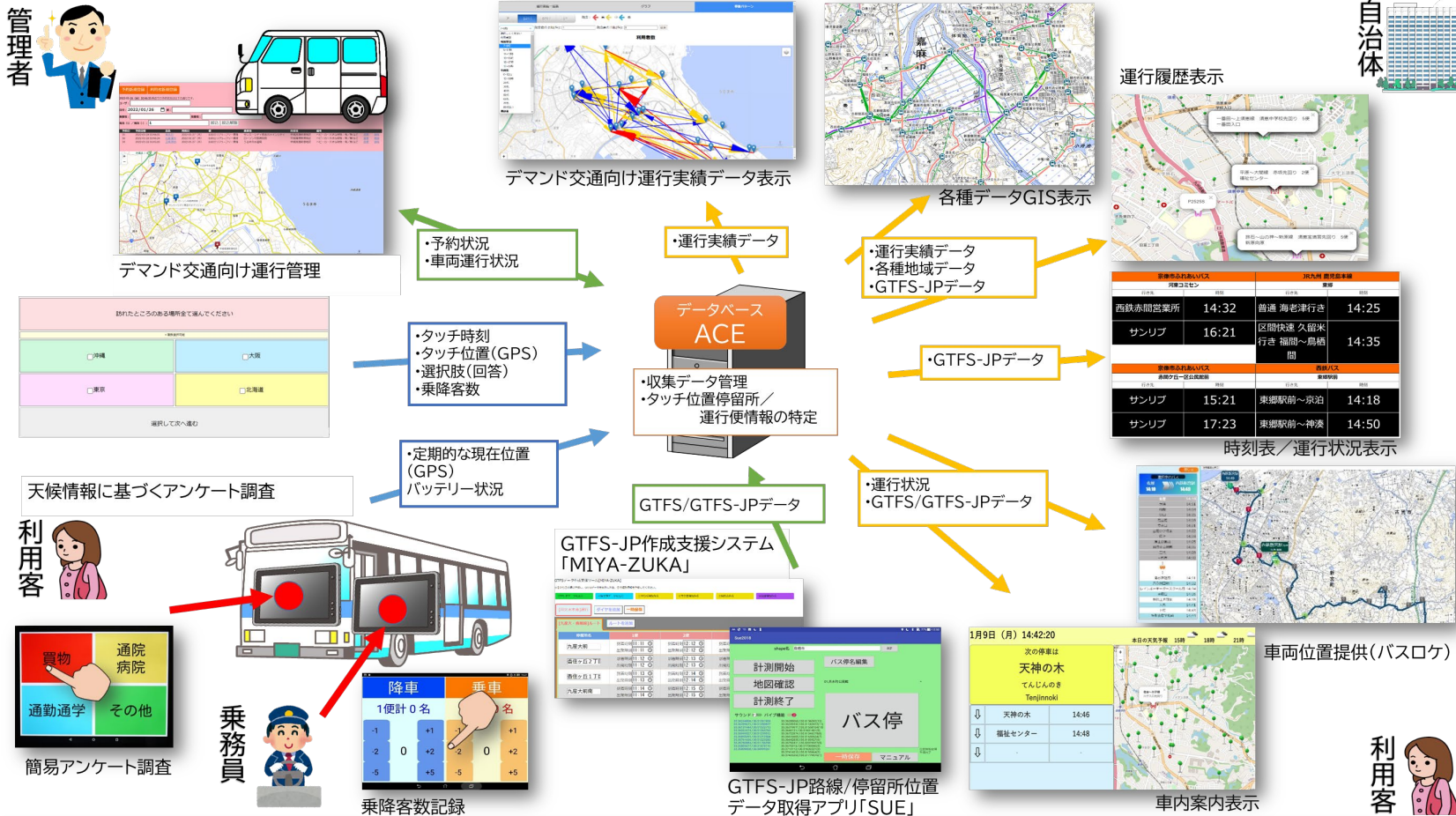


地域公共交通運行管理支援グループの活動理念⁴

情報通信技術 ICT で地域公共交通の
“アップデート”に貢献する



A) 地域公共交通向け運行管理支援システムの開発とその実践



これまでの連携実績

- 【官】行政機関 他**
 飯塚市 うるま市(沖縄県) 小郡市 嘉麻市 川崎町 北九州市八幡東区 串間市(宮崎県) 古賀市 田川市 直方市 福岡市東区(香住丘校区自治協) 福津市 豊前市 みやま市 宮若市 宗像市 柳川市 芦屋町 遠賀町 苅田町 新宮町 須恵町 築上町 久山町 福岡県 沖縄県 国土交通省九州運輸局

- 【産】企業・民間団体**
 Google Yahoo ヴァル研究所 NAVITIME 太陽交通 日本工営 構造計画研究所 九州先端科学技術研究所 Qサポネット タクコミネット

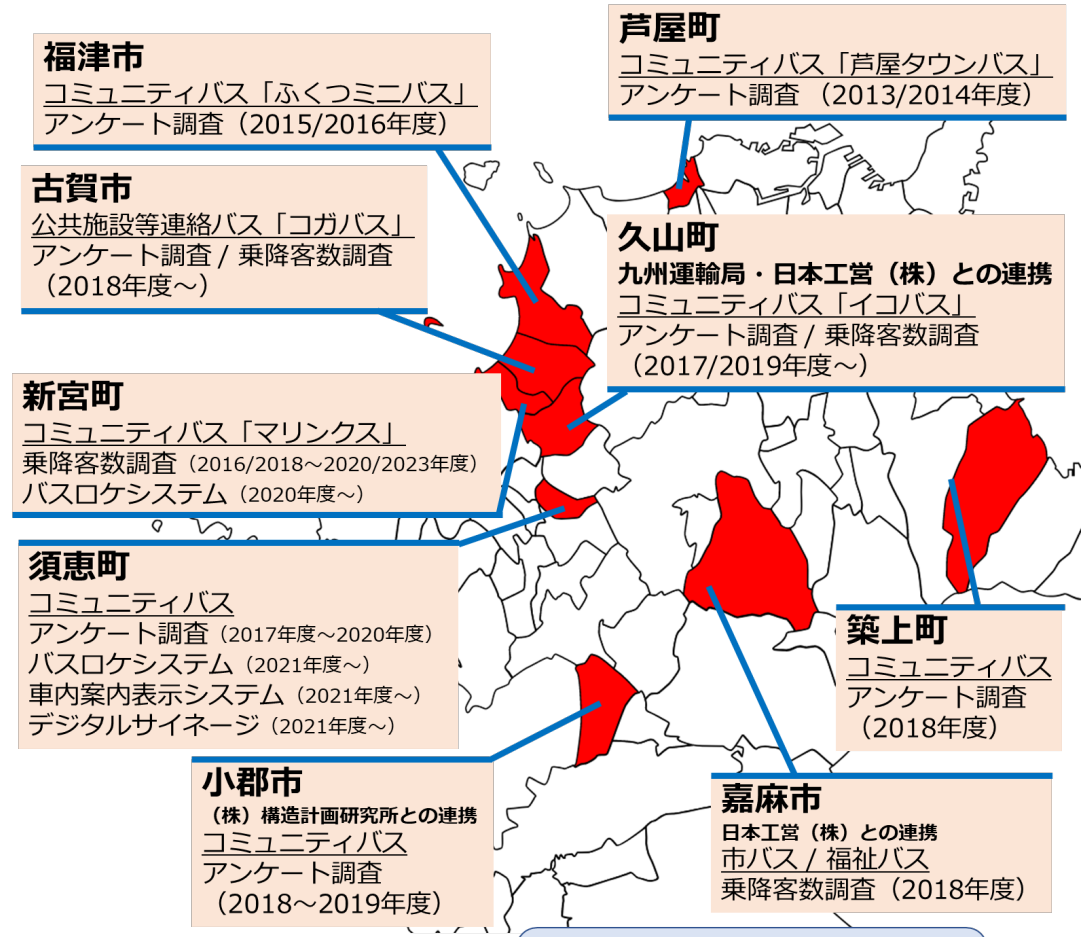
- 【学】安武研究室 九州大学(内林助教)**

本学実用化支援研究費に採択

デマンド運行管理機能を備えた地域公共交通向け統合運行管理支援システムの実用化



ICTを活用した 地域公共交通の運行管理支援

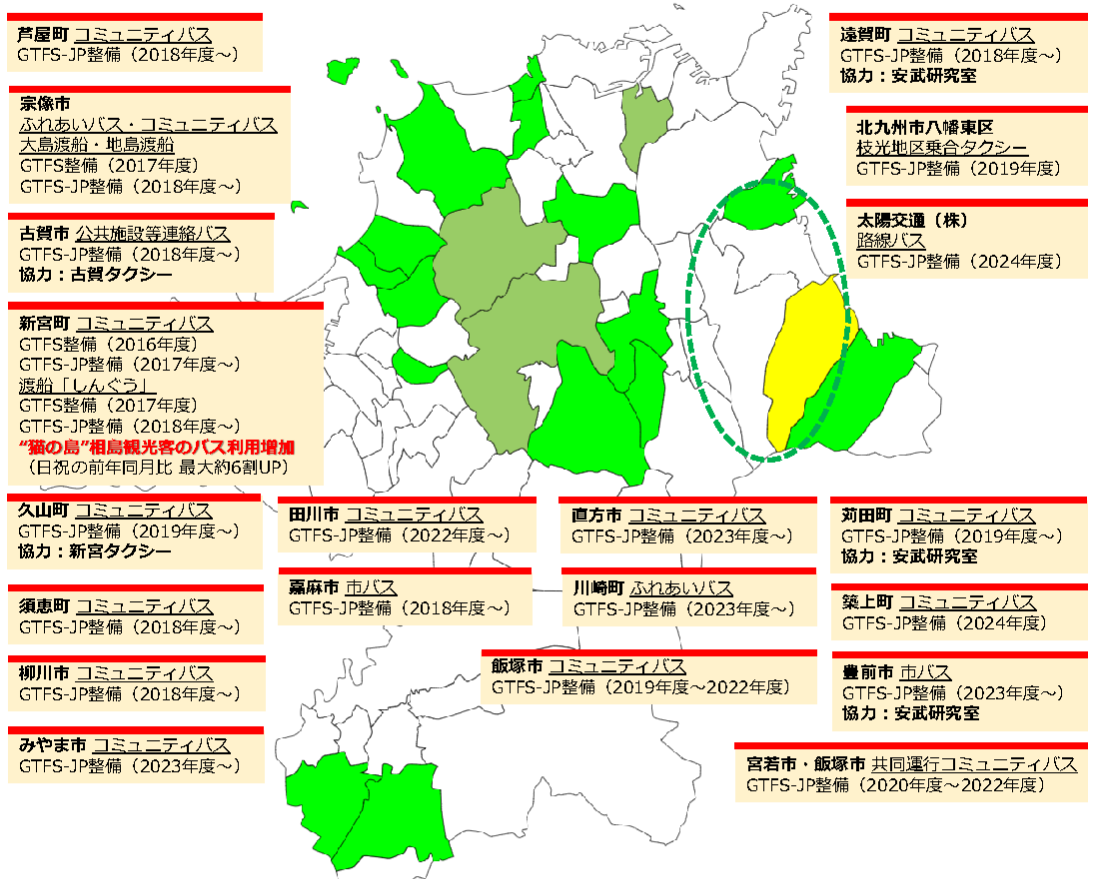


福岡県 交通政策課
公共交通調査に関する周知活動支援

沖縄県うるま市
日本工営(株)との連携
公共施設間連絡バス
乗降客数調査 / バスロケシステム (2021年度～)
デマンド交通
運行管理システム (2022年度)

地域公共交通基盤データの整備支援

GTFS (General Transit Feed Specification) : 世界標準の交通基盤データ形式
GTFS-JP : 国土交通省策定データ形式「標準的なバス情報フォーマット」



沖縄県うるま市
公共施設間連絡バス
GTFS-JP整備 (2021年度)

福岡県 交通政策課
オープンデータ整備・GTFSデータリポ
ジトリ等各種オープンデータサイトへ
の掲載に向けた連携

宮崎県串間市
コミュニティバス
GTFS-JP整備 (2019年度)

国土交通省九州運輸局
交通企画課
オープンデータ整備支援に向けた連携
令和2年度交通政策関係功労者
九州運輸局長表彰受賞



研究グループ紹介動画



九州産業大学による ICT を活用した
地域公共交通の課題解決支援！



稲永研究室
地域公共交通
運行管理支援グループ



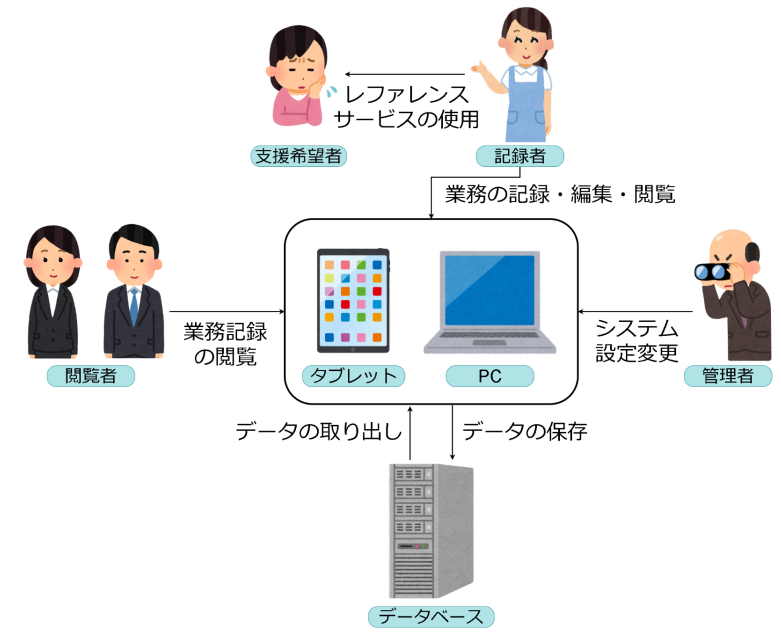
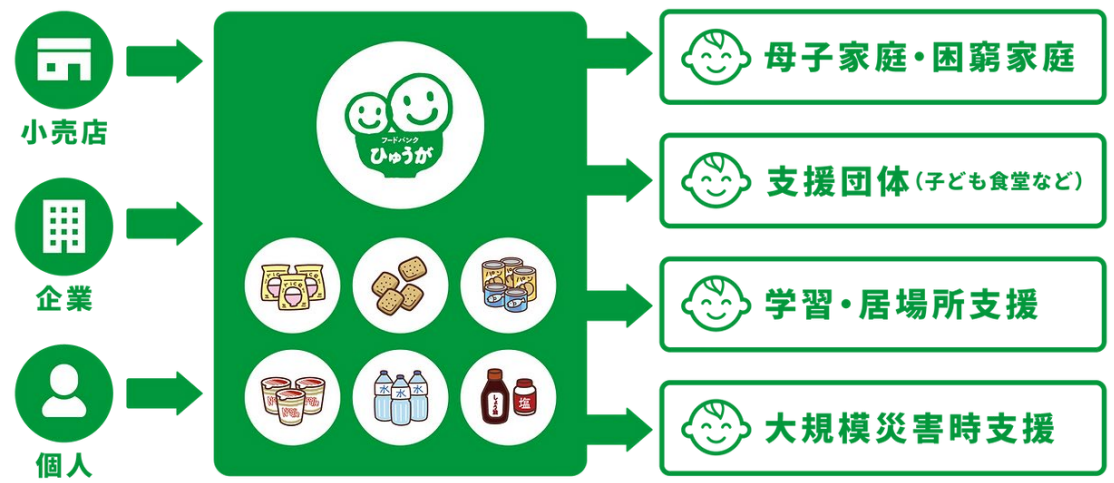
稲永研究室 ICTを活用した地域課題解決

B) 生活困窮者自立支援のための 情報共有システムの開発

- 新年度より四者間連携の形で本格活動開始



- 研究室は情報共有システムの開発を担当



稲永研究室が学生に求めること

- 教員の担当科目と研究内容との違いを把握
 - 研究紹介や研究訪問で研究内容を要確認
- **新たな／未知なる事柄へ挑戦する姿勢**
 - 地域公共交通や生活困窮者自立支援へのICT活用という難題に取り組む
 - 与えられたことだけでなく、学生という独自の視点で新しい問題を見つけ出し挑戦しよう
- **適切なタスク&時間管理**
 - 特に外部との連携では大前提
 - 研究室活動では有限な時間の有効活用がカギ
- **積極的なコミュニケーション**
 - 研究は研究室内外の関係者との共同作業
 - 研究室内外の関係者との情報共有／交換は有効



研究室訪問の際に 活動詳細の紹介や質問対応

4/ 9水3限 & 4/16水3限

@12503稲永ゼミナール室

訪問時間帯以外でも対応します(要 アポ取り)

